

整髪でさっぱり…笑顔の入所者

須磨・中央・北区会

入所者の髪にドライヤーをかける中道さん(左)と細野さん

ボランティア最前線



「きれいな髪になりましたよ」。中道紀子さん(生13)の声かけに、おばあちゃんは嬉しそうにニコリ。ここは、須磨区にある特別養護老人ホーム「サニーライフ白川」の特殊浴槽室前の廊下です。

10月26日、入浴後の整髪ケアボランティアを13年続けている、須磨区会の活動に同行取材しました。この日のスタッフは、細野恵久代表(福3)と中道さんの2人。ワゴンには、ドライヤーやクリーム、タオル、ブラシなど整髪に必要な用品が人数分用意されています。

入浴は1人ずつ。施設職員が介助するので、スタッフは浴室前で待機。「お願いします」の合図で、車椅子を押して鏡の前に誘導します。

さあ、ここからが本番です。会話が難しい人、座位が取れない人、手足にマヒが残っている人…。お年寄りの身体状況は様々ですが、不安を抱かせないよう動作が代わる度に「声かけ」。慎重に表情を読み取ながら作業を進めていきます。約10分後、「はい、すみましたよ」。エレベーターで下の階まで送ります。この日は、入浴者が6人と少なかったため、いつもより早く終了しました。

待ち時間は、入所者の皆さんとおしゃべり。身の世話や孫の話。時には悩みの相談まで。これも、入

所者にとっては楽しいひと時のようです。

施設開設と共に歩んできた整髪ボランティア。今ではなくてはならない存在となっています。



「長年続いている、魅力と秘訣は何でしょう」と、細野代表に問いかけました。「おばあちゃんたちの笑顔」、「施設との信頼関係でしょうね」。それと、「無理をしないことです」と。

3区会が整髪ボラ

各区会では、様々なボランティア活動に取り組んでいますが、「入浴後の整髪ケア」ボランティアもその一つ。須磨区会(会員4人と有志)のほか中央区会(元田弘忠代表・会員3人)と北区会(淡路

忠義代表・会員10人)も長年続けています。

共通の悩みは、登録メンバーが年々減少していること。今のメンバーも高齢化しており、継続するためには世代交代が欠かせません。従来2人態勢で行ってきた当番も、メンバー不足のため、北区会を除いて1人でせざるを得ないのが、現状のようです。

取材を終えて 整髪ボランティアを初めて見学しました。適切な声かけに細やかな配慮。お年寄り一人一人に温かく接するスタッフの姿に、心打たれた半日でした。(取材:井口久美子 写真:木村成男)